岐阜県関市中池におけるバスギル完全駆除と在来魚相の回復

向井貴彦（岐阜大学地域科学部）

岐阜県の関市は里山的景観が広がる中山間地域であり，長良川鵜飼（小瀬鵜飼）や刀剣づくりに由来する刃物産業といった歴史文化とともに，県内他地域ではほぼ絶滅したウシモツゴのような希少種の生息地といった自然環境も残っている．しかし，東海北陸道と東海環状道といった高速道路によって名古屋市や豊田市といった中京都市圏とのアクセスが容易な地域でもあるため，工業団地の造成が進むことで里山環境が改変されるとともに，アクセスの容易な溜池へのオオクチバスやブルーギルの放流が盛んに行われることで在来生物群集に大きな影響を与えてきた．そのため 2000 年代半ばから，里山環境の保全活動として絶滅危惧種のウシモツゴの保護と，本来ウシモツゴの生息域だったと考えられる地域の溜池における外来魚駆除が官民協働でおこなわれてきた．

関市の当該地域における溜池は谷戸に作られたものが多く，水抜きが容易であったため，これまでに約 10 地点で池干しによる外来魚駆除をおこなった．ほとんどの場合，池干しによってオオクチバスとブルーギルを完全に駆除することができたが，有名バス釣り場であった「中池」では，2009 年に約 20 年ぶりの池干しをした後も，2010 年，2011 年と毎年池干しをしたにもかかわらず，毎回約 1000 尾（約 100kg）のオオクチバスが捕獲され，大規模違法放流がおこなわれているものと考えられた．このことについては，2012 年の外来魚情報交換会で発表をおこなった．

その後も，中池においては地元の方々の努力によって池干しが継続されてきたが，2012 年の池干しでは，一転してオオクチバスの捕獲数が 8 尾のみに激減した．また，池の上流側の湿地やビオトープに生息するオイカワ，ヌマムツ，タモロコ，ウシモツゴなどが流下して激増した．さらに，2013 年の池干しではオオクチバス成魚 1 個体，ブルーギル成魚 1 個体が捕獲されただけで，在来魚は前年同様に多数確認された．そして，2014 年の池干しではオオクチバス，ブルーギルともゼロとなり，捕獲されたのは，ほぼ在来魚のみとなった．

中池においてオオクチバスとブルーギルが根絶されるまで 6 年間毎年池干しを継続する必要があったが，オオクチバスだけでなくコイもゼロとなり，ヘラブナも激減し（他のフナとの識別が難しいため，正確なデータはとれていない），年によって散発的に獲れていた放流起源と思われる大型のナマズ，ニホンウナギ，金魚も 2014 年にはゼロとなった．その一方で，在来魚は非常に多く生息し，本来あるべき里山の溜池生態系に近づいたといえる．

なお，この成果は行政や研究者によるものではなく，地域の自然を取り戻そうという関市黒屋のみなさんの力によるものであることを書き添えておきたい．